

2014年12月25日発行

地域と協同の 124号 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

農業・農協「改革」は誰の為か？

村上 一彦

農業・農協問題研究所三重支部 地域と協同の研究センター理事



この年の暮れに安倍内閣延命をかけて、突如総選挙が行われた。自公で引き続き2/3超を得たが自民党自身は前回比3議席減らし、沖縄選挙区では全て負けた。知事選に続く敗北となった。アベノミクス、消費税増税、原発再稼働、辺野古新基地移設等の論戦が行われた選挙だったが、農業・農協「改革」は争点にはならなかった。

マスコミの影響もあって「農協の問題でしょ！」と見られたのだろうか。しかし農業・農協「改革」は農業者、農協だけの問題だろうか。

詳しく触れる字数の余裕はないが、答申内容は第一に現在の総合農協を経済事業に特化し、職能組合に徹すべきと言い、第二に農協の非営利規定を外し、株式会社の企業体に転換せよと言う。この道はやがて農協の解体に繋がる。

農業改革の方は、農外企業による農地取得と農業参入により、TPPの受け皿となれる（低価格に耐える？）経営体づくりを目指すというものだ。（政府は先に、30ha規模の経営体（企業体）を6万育成し、土地利用型農業の8割を担わせるビジョンを発表している。）

要は、家族農業ではなくて、農外企業中心の農業成長産業化（アベノミクス）を構想する。

この「改革」が、はたして食の安全、安定した食糧確保、自給率向上に結び付くのか、国土保全、環境保全に直結する農業の多面的機能の発揮にプラスなのか、の点で全ての国民に直接関係してくる問題だ。さらに、非営利規定を外して協同組合を否定し、株式会社になれとの脅しは、「協同組合」に対する宣戦布告であり、明日の生協の問題でもある。ICA（国際協同組合同盟）のグリーン会長が、政府の「改革」案は協同組合原則に反していると批判したのは当然であろう。

この「改革」案の是非を巡って、より広く国民的議論になることを切に願うものです。

CONTENTS

巻頭エッセイ 農業・農協「改革」は誰の為か？	1
環境パネル 中部電力新名古屋火力発電所見学 最新式火力発電所、よりクリーンで熱効率も高い！ でも燃料は輸入	2
第三期研究奨励助成報告会 開催さる	
研究成果を報告いただき、活発な質疑がおこなわれました	3
三河地域懇談会 拡大実行委員会 学び場 第1弾 「認知症サポーター養成講座」を開催しました	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 12月の活動

1日(月) NEWS編集委員会 共同購入事業マイスターコース第4回
3日(水) 三河地域懇談会 フィールドワーク「のき山学校」見学交流会
6日(土) 第3回研究奨励助成報告会Ⅱ
10日(水) 環境パネル世話人会
11日(木) フォーラム職員の仕事を考える世話人会
13日(土) 尾張地域懇談会世話人会 ものづくりの思いを語る会
20日(土) 第4回理事会/東海交流フォーラム実行委員会
22日(月) 三河地域懇談会実行委員会

環境パネル 「中部電力新名古屋火力発電所」見学

(文責：事務局)

最新式火力発電所、よりクリーンで熱効率も高い！でも燃料は輸入

11月7日（金）「わたしたちのエネルギーがどうあるべきか」について、まずは「見て」「聞いて」「考えよう」と、中部電力新名古屋火力発電所を、15名で見学させていただきました。まず発電所の説明を受け、制御室、廃熱回収ボイラー、火力発電所建屋内タービンを見学させていただきました。この火力発電所は、エネルギー効率がよく、大気汚染物質の排出が少ない最新技術の発電所でした。

◆業務課職員からの概要紹介◆

1. 発電所の概要

発電方式は、液化天然ガスLNGを燃料としたコンバインドサイクル方式です。電気需要の季節変化、時間変化にLNG火力が柔軟に対応しています。発電所の立地は、名古屋港の埋め立て人工島にあり、敷地面積43万㎡、名古屋ドーム9個分です。昭和39年から50年かけて石炭から石油にシフトしてきました。昭和48年当時は80%が石油火力によるものでしたが、オイルショックの影響で、燃料調達に難しくなり、「石油だけに頼ってはいけない」という教訓を得ました。将来への安定供給が見込まれ、エネルギー効率がよく、二酸化炭素などの温室ガスや大気汚染物質の排出が少ないクリーンなエネルギーがLNG（液化天然ガス）でした。平成10年には7号系列が、平成20年には8号系列が運転を開始しました。



▲建屋内タービン、4万個の部品があるという

2. LNGコンバインドサイクル方式の発電

ガスタービン式の火力発電は、ジェットエンジンと同じ原理で、空気とガスを混ぜて燃焼させると、急激な体積膨張があり、その膨張力で鋼鉄製羽根車（1500℃に耐えるようセラミックスでコーティングしてあり、穴が空いていて空気で冷やしながら）のタービンを、1分間に3000回、回します。このガスタービンから排出された600℃近くの温度の排気ガスは、廃熱回収ボイラーに送られ、内部に配列された配管で水を熱し、その蒸気が再び建屋に戻され、タービンを回す力に加えられます。こうしてガスタービン式と蒸気タービン式の2つの動力を結んで発電機を回し、効率よく熱エネルギーを吸収できる仕組みとなっています。定期点検は、4年に1回、バラバラにして点検します。発電機は4万個の部品があります。建屋から少し離れたサービスビルの中央制御室では、制御盤で合計10軸の発電機を組み合わせながら電力需要の変化に対応しています。通常4人で運転しています。

3. 高い熱効率

8号系列発電の熱効率は58%で、燃料使用量や二酸化炭素の排出量の削減につながっています。このLNGコンバインドサイクル発電は、今、日本の主力発電となっています。燃料のLNGの使用量は1日9500tで、知多のLNG基地から、延長約17Kmある地下のガス導管で運ばれてきます。燃料のLNGは、カタール、インドネシア、オーストラリアから、26万㎡積める最新式のLNGタンカーで輸送されてきます。各国の協力関係を密にしながら、エネルギーの安定調達に努力をしています。新名古屋火力発電所の電気は、ほぼ名古屋市の電気消費量に相当する305万8千kWです。平成25年の実績で、223億kWの電力を作っています。熱効率が高いと同じ電気を作るのに燃料が少なく済み、二酸化炭素も少なくなります。西名古屋火力発電所では平成30年に向けて60%熱効率の発電施設の設計をしています。



▲コンパクトな8号系列の建屋

《参加者の感想、出された課題や問題点など》

「火力発電は、蒸気タービンとガスタービンの、発電方法がある事を知り、新発見でした」「これからの発電を担うものとして大きな期待を感じました」「しかし、“人類の将来にわたって安定した電力供給ができるのか？”



▲廃熱回収ボイラー、吸気室もあり、霧吹きすると空気をより吸い込むという

と考える」「いずれも化石燃料使用なので、原子力発電でなく、代替え発電の事も早急に考えないといけない。」「LNGコンバインドサイクル方式はベターだが、円安で電気代値上げの根拠にされるのは問題だ」「液状化対策には基礎工事がきちんとされているといわれたが一抹の不安が残る」「より環境にやさしいといっても影響している」「最新式の方式で当面やっていながら、自然エネルギーをどう増やしていくかが見えるといい」「原子力に頼らないで、私たちがすすめる効率の良い電気を作る取り組みが必要」「エネルギー政策を皆で話し合う機会を是非持ちたい」などの意見が出されました。

第三期研究奨励助成報告会 開催さるー

(文責：事務局)

研究成果を報告していただき 活発に質疑がおこなわれました

地域と協同の研究センターでは、会員の研究を奨励し、様々なテーマで研究がすすむように、研究費用の一部を助成する研究奨励助成事業に取り組んでいます。今回、その成果を報告いただくよう、第三期研究奨励助成報告会を開催しました。その概要を紹介します。

**1. 岐阜会場 報告会**

11月8日（土）に、岐阜駅前にある「じゅうろくプラザ小会議室2」で行いました。報告会には、コープぎふ、コープあいち、コープみえ等から、20名の参加がありました。

木村孝子氏から、「岐阜県に於ける飛騨美濃伝統野菜の流通・販売の方向」をテーマに調査された報告があり、岐阜県では飛騨美濃伝統野菜の認定がされているが、それをどのように拡大発展させるのかよくわからない状況にあり、伝統野菜27品目のうち、弘法イモ、十六ささげ、半原かぼちゃ、あじめこしょうの4つの野菜について、調理メニューを配発したい

と試作をしたとの報告がありました。また杉山道雄氏より、「高齢者栄養支援協同地域システムの確立に向けて」をテーマに研究された内容の報告があり、高齢者栄養支援レシピや、配達弁当などの業者システム、生協システムに関わり報告がありました。原勝行氏からは、「福井県民生協の活動からの研究」として、福井県民生協の取り組みの研究、「経営品質」向上活動の研究について報告があり、岐阜県における移動店舗の可能性についても調査した報告がありました。

◆参加者の感想

「よい研究会でした」「食べ物のアクセス（流通・販売等）と情報のアクセス（食物の安全、栄養価、郷土食）がうまくバランスがとられてシステムが出来上がって行くのだと思う。」「飛騨美濃伝統野菜のことは、自分の中では十分理解してなく現状がよく分かりました。」「このような発表会が開催されたことは価値がある」

2. 名古屋会場 報告会

12月6日（土）に、金山駅前にある名古屋都市センター会議室に於いて、コープぎふ、コープあいち、コープみえ、地域福祉パネル関係者等が21名参加し開催されました。以下のような報告がありました。

前田洋介氏、松浦明美氏、内藤徳波氏、椋木真佐子氏、豊田利幸氏、津坂賢一氏の六人のグループからは、「地域福祉における市民活動を支える仕組みの特徴」～「居場所」に着目して～をテーマに研究に取り組みされた報告がありました。その内容は市民団体による「居場所づくり」の取り組みについて、メンバーが八つの事例について訪問して調査し、まとめたものです。関市にある善光寺の「てらっこ」は大きなお寺を活用して子育て広場が、多世代がつどう広場として開催されているという報告でした。「まちの縁側クニハウス」はだれもがホッとできるまちの縁側として、東山線池下駅近くの自宅を開放して取り組まれており、そこを体感しながら学んだ京都市の「ハルハウス」についても報告がありました。「恵方の家」は、昭和区で2010年に発足子どもたちが集まる公園にしたいと名古屋市の子育て支援事業の助成を受け始めた経緯の紹介がありました。「NPO法人仕事工房ポポロ」は、不登校の子どもたちが集まり、就労支援の取り組みをしている等の報告がありました。「非営利活動法人権利擁護支援・ぷらっとほーむ」は民生委員の活動から出発し、困っている人の終焉までを基本に支援しているということです。そんな「居場所」づくりの実践で、何かがわかり、大きな問題意識が生まれ、今後も研究を続けていきたいとの報告でした。



熊崎辰広氏からは、「中山間地域の問題と生協」をテーマに「T型集落点検」活動を通して得た課題を、生協としてどうとらえるかについて報告がありました。「T型集落点検」の活動は、集落内に住む「世帯」だけでなく、それらの世帯とつながる「家族」に注目した活動です。まず1回目は、集落ごと公民館に集まりレクチャーして、B紙に道を書いて、どこにどんな家があるか、その家の家族を調べ、2回目に中心的なメンバーで、こういうことをしたいということを出し合っってアクションプログラムができる等の報告がされました。

◆参加者の感想

参加者からは「幅広く「居場所」を考えて見るということでは参考になった」「既存の仕組みをベースとするのか、あるいは新しい枠組みで考えるのか、貴重なテーマだと感じました。」「生協が地域にかかわることを是非継続して下さい」「研究テーマを地域福祉から、政治、経済、歴史、文化と広げた取り組みにしてほしい」などの感想が寄せられています。（「第三期研究奨励助成報告集」は普及価500円です、ご希望の方は事務局へお申出下さい。）

三河地域懇談会 拡大実行委員会 学び場 第一弾

「認知症サポーター養成講座」開催しました。

文責：伊藤小友美

三河地域懇談会実行委員会では、今年度の活動テーマを「わたしたちのくらしと介護 ～地域で絆な老い支度を～」として学習やフィールドワークに取り組んでいます。11月20日に、「認知症を学び地域で支えよう ～認知症サポーター養成講座～」を、16名の参加で拡大実行委員会として開催し、クイズや体操等、参加型で楽しく学ぶことができました。その概要と感想をご紹介します。



認知症には、「すべてを失ってしまう」「怖い」「不安」「認知症にはなりたくない」などのイメージがありませんか。認知症は、85歳以上の高齢者の4人に1人がかかる病気です。誤解や偏見が多いのですが、脳の機能はおとろえても感情はふつうです。認知症の方は現在169万人、その半分が自宅で暮らしています。

もの忘れが激しくなったら認知症ですか。昨日の夕食は何を食べたか覚えていますか。すぐに献立を思い出せないのは認知症ではなく、ただのもの忘れです。認知症の方は食べたこと自体を忘れず。

認知症の中核症状としては以下の4つがあります。

①記憶障害（覚えられない、すぐ忘れる） ②見当識障害（時間や月日がわからない・人がわからない・場所がわからない） ③理解・判断力の障害（考えるスピードが遅くなる・2つ以上重なると理解できない・しくみが目に見えない道具や新しい機械をつかえない） ④実行機能障害（日常生活に必要な作業がこなせない）

見当識の障害は治りません。行動・心理症状は、心の状態や性格、環境によって出るので、まわりの人の助けがあればよくなります。例えばトイレの失敗が多い人は、トイレの場所がわからない場合があるので、わかりやすくする（ドアを開けて明りをつけておくなど）と、失敗が少なくなります。気慣れた服を用意することも大事です。

記憶障害のひとつに、「物とられ妄想」があります。財布の置き場がわからない、移動したことも忘れるというものです。そういう場合、どうしたらよいでしょうか。

- ①一緒に探す・・・80点
- ②他に関心を向けさせて忘れさせる・・・80点
- ③盗まれたと言い張るので、そんなことはないと言説得する・・・10点
- ④もの忘れをしないよう注意する・・・5点
- ⑤嘘を言っても大事なものは管理させない・・・60点

認知症の人の気持ちを考えてみましょう。とても不安

で、どういう目的でここにいるかもわからない、見知らぬ外国にいて不安な気持ちに近いものです。

対応のポイントとしては、3つの「ない」が大事です。「驚かせない」「急がせない」「傷つけない」です。自然な笑顔で、できるだけ1人で声をかけましょう。後ろから声をかけないようにしましょう。唐突な声かけは禁物です。おだやかにはっきりした口調で、相手に目線をあわせてやさしい口調で、話しかけましょう。早口、大声 甲高い声はいけません。方言はOKです。

認知症の治療としては、薬とリハビリがあげられます。脳活性的な回想法、音楽療法、音読、計算などを楽しんでやるのが大事で、無理に計算ドリルをさせることはストレスになります。

食生活についてですが、野菜と魚を食べること、よく噛んで腹八分目というのがよいですね。歯が抜けている人ほど認知症になりやすいことをご存知ですか。

運動は、脳細胞の働きがアップするので効果的です。動脈硬化を予防するウォーキング、掃除や庭の手入れ、畑仕事は認知症予防の効果があります。

また笑いも、ドーパミンがあふれるのでよいと言われています。ドーパミンはうれしいときに出る、脳を目覚めさせる、記憶や学習能力も高める神経伝達物質です。笑っているとき、脳にはドーパミンが出ています。

オレンジリングは認知症サポーターの証です。「認知症の人を応援します」という意思を示す「目印」です。認知症の人やご家族をご一緒に応援しましょう。

参加者からは「認知症患者への対応について理解できた。」「生協の福祉事業、組合員活動の一層の発展を期待している。」「予防の一つとしてバランスのよい食事を摂ることを大切にしていきたい。」「楽しいテストや体操もあり、説明も分かり易く理解が深まった。認知症には暗くマイナスなイメージが根強くあるが、誰もがかかる可能性がある。しっかりと知識と心構えをもつことが大切だと再確認できた」などの感想が寄せられました。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶私たちの食と地域を支える 生協産直</p> <hr/> <p>NAVI 2014. 12 753</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>▶特集 私たちの食と地域を支える生協産直</p> <p><僕らは商品探偵団> 大豆のうま味をすぐ味わえる 大豆ドライパック</p> <p><〈声〉に応えた商品レポート> パッケージへの個数表示</p> <p><全国のラブ・コープ・キャンペーン♪ラブコが行く> ユーコープのお店で「ラブコープまつり」が開催されたよ</p> <p><突撃☆あなたの街の組合員活動> コープこうべ&JF兵庫全漁連</p> <p><進化する生協の店づくり> 青森県民生協 コスモス館</p> <p><こんにちは！生協女子ですっ！> エフコープ 商品検査センター 川野由莉さん 野口百合さん</p> <p><宅配・現場レポート> コープ東北・コープ生協連 防災を考える仲間づくりツール</p> <p><つながろうCO・OPアクション情報> 産直センター福島 四国4生協</p> <p><生協人の基礎知識> 第9回 生協の福祉に関する事業や活動</p> <p><この人に聴きたい> フリーキャスター 進藤晶子さん</p>	<p>2014年 12月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶子どもの貧困</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM 2014. 12 568</p> <p>日本医療福祉生活協同組合連合会</p>	<p>▶特集 子どもの貧困</p> <p>インタビュー 地域で子どもたちを育ててほしい 子どもの貧困の取材を続けて 朝日新聞記者 中塚久美子</p> <p>[バンビのつぶやき 24] 「収入少ない＝貧困」なの 店主 中根桂子</p> <p>[住まう 完] 暮らしのオトが聞こえる住まい (後編) グループホーム「なも」 南医療生協</p> <p>[介護十人十色 完] 「認知症者の生活支援実態調査」結果概要報告 全国4657人 2年間の継続調査から見えてきたこと</p> <p>[リポート] 居場所づくり 学習・生活支援で地域の子どもたちを支える ポトスの部屋 愛知県名古屋市</p> <p>[協同のある風景] 223 広島豪雨土砂災害支援 ～共助のネットワークを被災地域で活かす 広島医療生協</p>	<p>2014年 12月 A4版 33頁 定価 400円</p>
<p>▶新たな対抗運動の可能性</p> <hr/> <p>社会運動 2014. 11 415</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>特集 シンポジウム 新たな抵抗運動の可能性 台湾ひまわり革命の記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新自由主義の仕業 林暉鈞 2 零時政府 龔卓軍 3 群集は民主主義を入院させる 港千尋 4 二重のアセンブリ 柄谷行人 5 ひまわり運動の歴史的経済的制約への一視座 丸川哲史 <p>第2特集</p> <p>女たちが編む はつらつ地域ネット 長野県上田市〈農ある暮らし〉上田モデル 食と農のまちづくりネットワーク・コラボ食堂の五年 古田睦美</p> <p>上田モデル 市民事業ネットワークによる地域づくり 古田睦美</p> <p>サブシステム・ワーカーが紡ぐ社会の展望 古田睦美</p> <p>商品たちの素性 合成洗剤とせっけん ワーカーズコレクティブのもの</p> <p>世界の多彩な協同組合 (第2回) 沖縄の共同売店 眞喜志敦</p> <p>商品たちの素性 (第2回) 美白化粧品謎の奥 中野寿バ子</p> <p>女性作家たちの声 (第2回)</p> <p>被差別部落問題と向き合う 瀬瀬あや</p> <p>隠れキリシタンと原発の国 津島佑子</p> <p>NAMを語る (第2回) 内在的闘争と超出的闘争 柄谷行人</p>	<p>2014年 11月 A5版 136頁 定価700円</p>

▶社会保障制度の
課題と
生協の新たな可能性

生活協同組合研究
2014. 12
467

(財) 生協総合研究所

- 巻頭言 超少子高齢・人口減少社会と生協の可能性 金子隆之
- ▶特集 社会保障制度の課題と生協の新たな可能性
～くらしやすい地域づくりを目指して～
- 開会挨拶 生源寺眞一
- 協同組合は社会政策にどう向き合うのか 中川雄一郎
- 日本の社会保障制度と2014年年金財政検証 駒村康平
- 行政と非営利組織による地域サポートの現状と課題 前田正子
- 中核地域生活支援センターはどのように作られたか 洪沢 茂
- 行政、医師会等、他団体との連携を大切に誰もが安心して暮らし続けられる
まちづくりをめざす 杉岡眞由美
- 生活クラブいなげビレッジ虹と風の取り組み 嶋田朋子
- ユープみらい「子育て」の取り組み 渡辺 寧
- パネルディスカッション
- 閉会挨拶 芳賀 唯史
- 時々再録 白水忠隆
- 日本記者クラブ「貿易に関する国際世論調査」
- 新刊紹介
- 駒村康平 『日本の年金』 齊藤真吾
- 前田正子 『みんなでつくる子ども・子育て支援新制度』 近本聡子
- 生源寺眞一 『農業と人間』 林 薫平
- 中川雄一郎/JC総研(編) 『協同組合は「未来の創造者」になれるか』 石澤香哉子

2014年
12月
72頁
B5版

▶「和食」の活用

月刊 J A
2014. 12
718

全国農業協同組合中央会

- 特集 「和食」の活用 ～農林水産業振興の視座から考える
- 【提言】「和食」の活用に向けて 熊倉功夫
- 【事例1】和食を軸にした外国人旅行者等の誘致対策
株式会社農協観光国際交流センター
- 【事例2】京野菜を世界ブランドに JA京都中央会
- 【解説】なぜ、2015年ミラノ万博で食料がテーマとなったのか JA全中対策部
- ・きずな春秋 ー協同のこころー 童門冬二
- ・中央会制度60年を考える/JAグループ共通コンテンツ
- ・地方紙ニュース 第45回
沖縄 国際物流の拠点に 長浜真吾 (沖縄タイムス社)
- ・直言! JAへのメッセージ
酒米の魅力 石川雄章 (公益財団法人日本醸造協会代表理事・会長)
- ・JAトップインタビュー ブランド力のある伝統作目を生かす
岡山県JA岡山東 代表理事組合長 長田謙二
- ・地域・支店から『戦略』を考える
「組合員ばなれ」の直視を 増田佳昭
- ・展望 JAの進むべき道
われらの思いを、訴えよう 谷口肇
- ・海外だより [DC通信] 43
ケベック州農業界の主張 古林秀峰
- ・見せましょう、協働の底力!
地域の宝物のすてきな巡り合い (後編)
あまおうプレミアムスパークリングワイン (福岡県) 青山浩子
- ・トピック「一日一食 おいしい乳和食」で健康寿命100歳を目指そう
JA 全中くらしの活動推進部高齢者対策課
JA 健康寿命100歳プロジェクト推進委員会
- 次代へつなぐ協同実践塾
- ・持続可能な農業の実現 担い手支援の取り組みについて
JA全中営農・経済改革推進部
- ・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 地域の高齢者の拠点で動く直売所
JA全中くらしの活動推進部
- ・10年後 JA が存続するために
「JA グループ人づくりビジョン運動」の要 JA 全中経営指導部

2014年
12月
A4版
64頁
年間購読
料
4,800
円(送料込)

▶協同労働の協同組合の学びを深める場づくりとは

■巻頭言 協同労働で仕事おこしと地域づくりを
～無茶々園のリーダー研修を通じて～
大津清次 (地域協同組合 無茶々園 専務理事/会員)

**特集 協同労働の協同組合の学びを深める場づくりとは
～市民社会の主体者・変革者として～**

- ・大学生からみたときの協同組合・ワーカーズコープとは (協同組合論の講義の感想文より) 相良孝雄 (協同総合研究所/会員)
- ・2013年度地域労働リーダー基礎研究の学びの評価について
ーグリーン・リカバリー、BI、地域通貨、ワーカーズコープの意義
相良孝雄 (労協連未来人材育成プロジェクト/会員)
- ・どうすれば組合員が地域で豊かな仕事をおこす協同労働の達人になれるのか
ー「協同労働定着化プログラム」をみんなでつくりあげようー
コーディネーター 田中羊子(労協センター事業団 専務理事/会員)
コメンテーター 星平順子(労協センター事業団九州 / 会員)
パネリスト 横林加代子(労協センター事業団 きつざクラブ豊北事業所)
岩田雅弘 (労協センター事業団 きらっと地域福祉事業所)
佐々木あゆみ(労協事業団 苫小牧まちづくり地域福祉事業所)

■報告 東海協同集会

- ・2014協同集会in東海 地域で発見。「協同ってなに？」
橋本吉広 (集会実行委員/協同総合研究所常任理事/会員)
- ・開会挨拶 永戸祐三(日本労協連理事長/会員)
- ・記念講演 無縁社会・老人漂流社会をこえて ～見出す希望・絆～
板垣淑子(NHK大型企画開発センター チーフプロデューサー)

2014年
11月
B5版
121頁
定価1300円

協同の発見

2014.11
264

協同総合研究所

▶動き出す医療介護「一体改革」

農協組合長インタビュー (12) 「出向くサービス」で関係を強化

動き出す医療介護「一体改革」 東 公敏

青木克明

院長リレーインタビュー (280)

院長が先頭に立って患者を診る

田中憲一

「JAグループの自己改革について」を検討する

田代洋一

厚生連病院治験ネットワーク 上郡賀総合病院

CRCのサポートで負担少なく治験ができる

衛藤進吉

ターミナルケアー全国厚生連病院医療地域のアンケート調査から (その1)

調査経緯とターミナルの告知

服部 晃

開院50周年記念 知多厚生病院祭に行ってきました 中根伸夫・関根健太郎

第18回厚生連病院と単協をつなぐ医療・福祉研究会報告

渋川大介

ノバルティス社「ディオバン」問題を考える (2)

片平洸彦

岐路に立つ日本のエネルギー政策 (4)

原発事故費用を誰が払うのか (1)損害賠償について

大島堅一

岡田玲一郎の間歇言 病床機能評価の待ち受けるもの

岡田玲一郎

デンマークにおける再生可能エネルギー事業団と

エネルギー教育の取り組みについて

大平佳雄

イタリアの認知症対策ネットワーク

小磯 明

野の風●湯呑茶碗

寺西弘教

デンマーク&世界の地域居住 (67)

イギリスの高齢者施設:ナーシングホーム ②

松岡洋子

ゲーテンターク、ドイツ (3) ドイツのクリスマス

鶴殿博喜

維新前夜の天狗党 番外編

平間好弘

イタリアの協同組合 エミリア・ロマーニャ・コンフコーペラティヴェ

小磯 明

2014年
12月
B5版
88頁
文化連情報
編集部
03-3370-
2529
*注

文化連情報

2014. 12
441

日本文化厚生農業協同組合
連合会

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。 詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

「これからの協働を考えるフォーラム」

定員250名 参加費無料

●ウィルあいち大会議室ほか(名古屋市東区上笠杉町1/(地下鉄「市役所」駅2番出口より東へ徒歩約10分)

1.全体会(13:00～14:20)「三重県四日市市における行政、NPO、地縁組織による連携・協働」

～災害時における男女共同参画の事例を切り口にして～

コーディネーター:昇 秀樹(名城大学都市情報学部教授) コメンテーター:松井真理子(四日市大学総合政策学部教授)

2.分科会(14:30～16:30) ①NPO、地縁組織をどのようにコーディネートしていくのか? ②大学、行政、NPO、企業との連携による人材育成～知多半島の事例から～ ③団塊の世代と空き家のセカンドライフデザイン～岡崎市松本町の事例から～ ④地域課題を深掘りし、戦略的に解決に挑む～お金は出して終わりか、もらって終わりか、お金だけに頼らない新しい取組～

3.交流会(16:30～18:00)

【主催】愛知県 【企画】 NPOと行政の協働に関する実務者会議

申込期限:1月15日(木) 先着順

【問い合わせ・申込み先】 あいちNPO交流プラザ(担当:安藤、木村) Tel.052-961-8100 Fax.052-961-2315

E-mail:npo-plaza@pref.aichi.lg.jp 詳細内容⇒あいちNPO交流プラザ <https://www.aichi-npo.jp/>

書籍案内

子どもとつくる地域づくり —暮らしの中の子ども学—

著者:野本 8 三吉(加藤彰彦) 出版社:学苑社

判型:四六判/並製 定価:2400円+税



内容:子どもは地域社会で育ち、地域をつくる当事者でもある。

本書は、新たな「子縁社会」創造のための実践的な見取り図。横浜と沖縄の厳しい現実から紡ぎ出された「子どもソーシャルワーク論」の真髓がここにある。聴けば応えてくれる大人に囲まれ、群れて遊べる暮らしづくりへ。新たな時代は、あなたの一步から始まる。

著者紹介(初版時)野本三吉(加藤彰彦)(のもとさんきち/かとうあきひこ)

貧困の子どもや家族を支援する第一人者。30冊以上の単著をペンネームと本名で執筆する。横浜寿町のドヤ街に住み、地域の問題に取り組む。その後、沖縄に移り、沖縄大学の教授・学長になり、今年3月、学長を退任し名誉教授になる。著者の生き方、考え方に賛同する多くのファンが全国にいる。

目次:はじめに

第I章 地域と生きる子どもたち

第II章 戦後の子ども現像について

第III章 子ども支援へのアプローチ

第IV章 学びと暮らしの場づくり

第V章 暮らしの中の子ども学

第VI章 子どもと暮らしの臨床学

学苑社ホームページより

2014年12月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 1月の活動予定

6日(火) 生協の未来のあり方研究会

8日(木) 三重のつどい世話人会

10日(土) 共同購入事業マイスターコース実践交流会

14日(水) 第9回協同の未来塾

15日(木) 第4回理事ゼミナール

17日(土) マイスターコース第6回

20日(火) 食と農パネル/地域福祉を支える市民協同パネル

22日(木) 暮らしを語りあう会

23日(金) F職員の仕事を考える世話人会

26日(月) NEWS編集委員会 29日(木) 常任理事会

28日(水) 三河地域懇談会 実行委員会

30日(金) 東海交流フォーラム報告者懇談会

31日(土) 三重のつどい トークバトル